

## 第4回田辺市森づくり構想策定等委員会 会議録

日 時	令和2年11月26日(木) 午後1時30分～午後5時00分
場 所	田辺市役所 大塔行政局 4階 会議室5
委 員	3名 ※欠席委員なし
その他出席者	委員会運営支援業務受託事業者 3名
傍 聴	2名
会議事項	1. 開 会 2. 研 修 (1) 林業の現状と課題【川上】 (2) 木材の流通と木材一般論【川中】 (3) 木材サプライチェーン構築事例紹介【川下】 3. 次回の委員会日程について 4. 閉 会

### 1. 開 会

田辺市森づくり構想策定等委員会条例第5条の規定に基づき、委員長が議事進行を執り行う。

### 2. 研 修

#### (1) 林業の現状と課題【川上】

##### 【質疑応答】

(A委員)

皆伐、植栽により山を循環させているが、同じ場所を繰り返して植林していく取組がうまくできているのか。1回目はうまくいくだろうが、2回、3回と繰り返した時にうまく木が成長するのだろうかという疑問がある。

(事業者)

海外の短期間で循環させているところでは疫病などで成長量が落ちたという事例もあるが、日本では、2回目、3回目の成長量が落ちたという報告はないので、日本の林業全体でも今のところ対応はしていないが、懸念事項ではあるので、今後はデータを取るなど注視し把握しておく必要性がでてくるかもしれない。

(A委員)

更新がうまくいった事例があると、循環させていくことについて安心感がある。

(事業者)

歴史のある林業地であれば、聞き取りなどでデータを取っておくは大事なこともかもしれない。海外では皆伐後は山を休ませたり、樹種転換を図ったりするところもあると聞いている。

(B委員)

和歌山ではウバメガシを短期間に更新している実績はあるが、スギ・ヒノキの人工林はそうした事例は少ないので、更新が増える今後は、注意しておく必要はあるかもしれない。

(C委員)

日本林業の採算性の低さを改善するために必要なことは何か。

(事業者)

一つは林業機械の導入。採算性の高いオーストリアでは伐倒をハーベスタという高性能林業機械で行っており、効率だけでなく安全性も向上する。ただ日本の山は傾斜がきつくハーベスタを使用することが難しい山も多い。海外では傾斜があってもハーベスタをウインチで引っ張って重機を安定させたいえで施業する技術もあるので、そうしたところも取り入れていくなど、できるだけ人の手に頼らない機械化が必要だと思う。もう一つは道が重要になる。

(C委員)

早生樹のコウヨウザンは日本に適しているのか。

(事業者)

広島県には50～60年生の山もある。枝葉が茂る木なので、光が入らず下層植生が生えないという特徴もある。

(A委員)

材は有用か。

(事業者)

どのようなものに使えるかについて、研究所で試験を行っている。コウヨウザンの他にもセンダンなどの検討も行われているところ。

(B委員)

和歌山の森林の特徴は何か。

(事業者)

傾斜がきつく道を抜けないところが多い。一方、そうした特徴の中で架線技術が高いということはメリットの一つだと感じている。また、和歌山は良材が育つ地域であり、良材が使われている地域でもある。

(B委員)

架線技術者の状況はどうか。

(事業者)

高齢化が進んでいて、後継者がいないところが出てきている。架線技術の継承は難しいが、タワーヤードを使つての架線であれば使いやすさというメリットはある。

## (2) 木材の流通と木材一般論【川中】

### 【質疑応答】

(B委員)

今後の木材市場の役割をどうみるか。

(事業者)

素材生産者は高く売りたい木を市場へ持っていき、良い木を買いたい人は市場へ行く。そう

した需要と供給は期待できる。また、市場がスマートサプライチェーンの役割を果たしていくことが、生き残る方法だと思う。

(A委員)

木材を利用することによる脱プラスチック効果はあるか。

(事業者)

住宅や土木現場など、鋼材やプラスチックを使うところに木材を使うことは、脱プラスチック、二酸化炭素削減につながる。鋼材やプラスチックの製造時に排出される二酸化炭素が削減されるだけでなく、木は腐らない限り二酸化炭素を貯蔵し続ける。環境面でのメリットはかなり大きく、単純に木材は価格が高いというのではなく、木材の有するプラスアルファの価値を評価していかないといけない。

### (3) 木材サプライチェーン構築事例紹介【川下】

【質疑応答】

(B委員)

和歌山は山が急峻な地形で大量に使う材を搬出するのは厳しい条件の地域だと思う。紀州材として売れるような、ニッチな部分を大切にしていけないといけない。そういう面で和歌山らしい紀州材の売り方についての提案などあれば。

(事業者)

紀州材は色も品質も良く誇りにして良いと思う。売り手の一方的な思いではだめで、評価してくれる人をいかに増やすかが難しいところ。

(B委員)

製材品の価格が上がっても丸太価格に反映されず山元に還元されない状況がある。構造的な問題もあるが。

(事業者)

山側が価格を提示できる体制を早く作らないと弱いまま。木材価格が良かった時代は山側が強かったが、今の状況では難しい。やはり需要を増やしていくことが重要になる。

### 3. 次回の委員会日程について

次回の委員会について、令和3年3月頃の開催とし、日程は改めて調整することとした。

### 4. 閉 会